

環境報告書2003



CONTENTS

ごあいさつ	2
経営理念と環境方針	3
環境マネジメント	
(1) 環境推進体制	4
(2) ISO14001への取り組み	5
(3) 法令等の遵守状況	8
(4) 環境会計	9
環境保全活動	
(1) 廃棄物の減量化とリサイクルへの取り組み	10
(2) 省エネルギーへの取り組み	12
(3) 環境汚染物質排出量の削減への取り組み	13
(4) 環境に配慮した商品設計	14
社会貢献活動	15
不二家の環境への取り組みの歴史	16
会社概要	17

報告範囲

この報告書は2002年度（2002年4月～2003年3月）における株式会社不二家の環境活動の取り組みを報告いたします。なお、環境負荷データ及び環境会計データに関しては、2002年度3月までにISO14001の認証取得を完了している3工場（平塚工場、秦野工場、富士裾野工場）のデータを収集・記載しています。





ごあいさつ



地球温暖化、大気汚染、資源枯渇、廃棄物対策等、環境問題の解決はもはや私達人類の共通の課題であり、持続的に発展可能な循環型社会の構築に向けて企業の果す役割が要請されています。

当社は「人々の健康と安全を守り、常により良い商品と最善のサービスを通じておいしさ、楽しさ、豊かさ、便利さ、満足を提供し続け、生活文化創造を目指して社会に貢献すること」を理念として企業活動を行って参りました。

そしてこの使命を果すべくマーケティング活動を軸として販売・生産活動を始め、諸々の活動を積極的に行なって参りましたが、21世紀の新しい時代を迎えて、これに加えて環境対策を展開し企業の社会的使命を果すべく、2000年2月に「環境宣言」を行い、その具体的な行動を起こして参りました。

そしてそれがシステムとして機能するようISO14001の認証を目指してEMS(環境マネジメントシステム)の構築を計り、その運用を計って参りました。2001年4月には富士裾野工場、2002年4月には平塚工場、秦野工場そして2003年4月には洋菓子工場である野木工場で認証を取得し、現在これを全社的な活動に向かって拡がるよう努めている処であります。

更に2002年11月16日当社創立記念日に当たり「株式会社不二家役員並びに社員の行動規範及び行動指針」を制定し宣言を致しましたが、この中で「環境問題に積極的に取り組み、社会自然環境の保全に努める」と明記し、その具体的行動要綱について制定し、宣言を行いました。

この様に当社では全社を挙げて役員並びに社員そして関連する全ての人々と共に環境対策に対処することを約束しております。

今後はこの輪を更に大きく拡げて行くと共にグリーン調達や、グリーン製品開発を進め、併せて食品企業にとっての課題である食品廃棄物リサイクル活動の強化を図り、一段と循環型社会の構築に向かって継続的に貢献し、「環境にやさしい企業」を目標として活動を推進して参りたいと存じます。

2003年6月

株式会社 不二家 代表取締役社長

藤井林太郎



経営理念と環境方針

不二家は、創業以来、「社是」及び「経営理念」にそって、事業活動を進めてきました。経営理念を遂行するための行動規範には、環境問題への積極的な取り組みを規定しています。

2000年2月には、行動規範に基づく環境問題への積極的な取り組みの基本方針である「環境宣言」を制定し、富士裾野工場を皮切りにISO14001の認証取得活動への取り組みを開始しました。

環境宣言

社是 愛と誠心と感謝をこめて、お客様に愛される不二家になりましょう

経営理念 常により良い商品と最善のサービスを通じて、お客様に、おいしさ、楽しさ、便利さ、満足を提供し、社会に貢献することが不二家の使命である。

行動規範 私たちは、環境問題に積極的に取り組み、社会・自然環境の保全に努めます。

環境宣言

2000年2月制定

基本理念

- この恵み豊かな地球環境を守り、健全且つ安全で自然環境を含む生態系が保全されることが人類共通の重要課題であると認識致します。
- 株式会社不二家は創業以来「食」を通じて、人々の健康と安全を守り続けると共に、豊かさ、そして安らぎを育み、私生活文化創造に貢献して参りました。
- 今後は、更に事業活動のあらゆる側面で地球環境への負荷を最小限とするよう努力し、「環境との調和」を図るよう努めて、人と自然との共生を図り、「地球環境にやさしい企業」を目指して行動して参ります。

基本方針

1. 企業活動、商品、業態、サービス等について、環境影響評価に基づき、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的、目標を定めて、環境保全活動の継続的な向上、改善及び汚染の予防を図ります。
2. 環境保全に関する法律、規制、協定等を遵守し、環境マネジメントの向上を図ります。
3. 事業活動における廃棄物の減量化とリサイクルに取り組みます。
4. 事業活動における省エネルギーに取り組みます。
5. 事業活動における環境汚染物質排出量の削減に取り組みます。
6. 事業における緑化、街の美化活動、環境保全への支援、協定活動に取り組みます。
7. 環境教育や広報活動を実施し、環境保全に関する社員の意識向上を図ります。

「環境との調和」を目指し、ISO14001の認証取得によって、環境問題への取り組みを具体的に推進し、併せて社会への貢献を図ることを宣言致します。

株式会社不二家 環境対策委員長
取締役副社長 長谷川洋

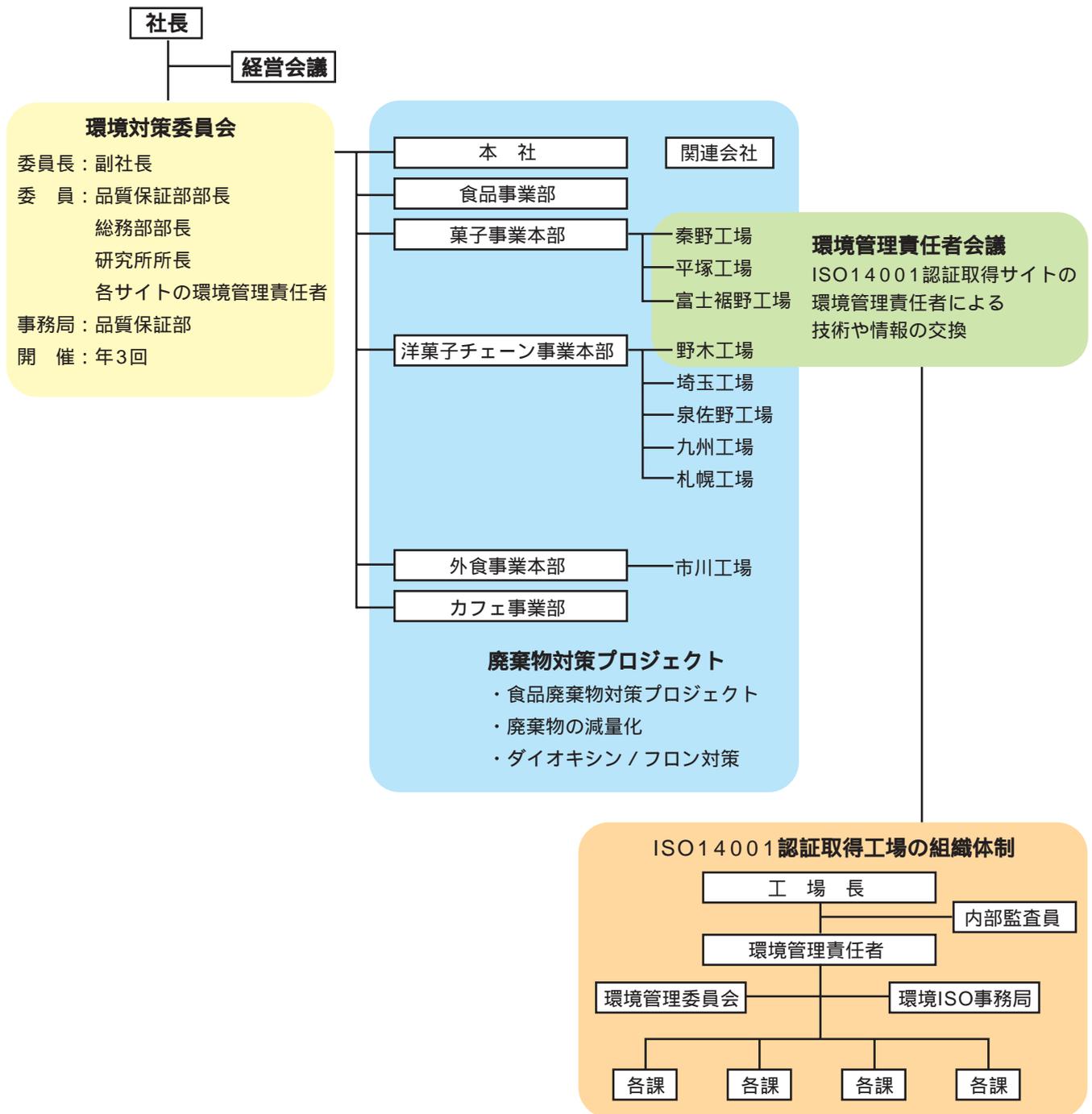


環境マネジメント

(1) 推進体制

不二家は、環境宣言に基づき、環境対策委員会を設置し、会社全体の環境活動に関する取り組みを検討し、推進してきています。また、ISO14001の認証を取得した事業所では、それぞれ工場長を委員長とした「環境管理委員会」を設置し、EMSで設定した目的・目標の達成のための具体的な取り組み状況とその結果としてのパフォーマンス達成状況を毎月確認し、改善活動を推進してきています。さらに同事業所間では、環境管理責任者会議を定期的に開催し、事業所間の技術や情報の交換による環境マネジメントシステムの質の向上を図っています。

推進体制 ※2003年4月末日現在





環境マネジメント

(2) ISO14001への取り組み

ISO14001 認証取得状況

2003年4月末までに、国内の4工場(研究所を含む)で、環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。各工場ごとに環境マネジメントシステムを構築し、Plan(計画)-Do(実施及び運用)-Check(点検及び是正処置)-Action(経営層による見直し)サイクルを回し、継続的改善を図っています。

2003年度は、埼玉工場での認証取得の取り組みについて、検討を進めます。

ISO14001の認証取得状況

年月	事業所	所在地	認証機関
2001年4月	富士裾野工場	静岡県	JACO
2002年4月	平塚工場	神奈川県	JACO
2002年4月	秦野工場	神奈川県	JACO
2003年4月	野木工場	栃木県	JACO

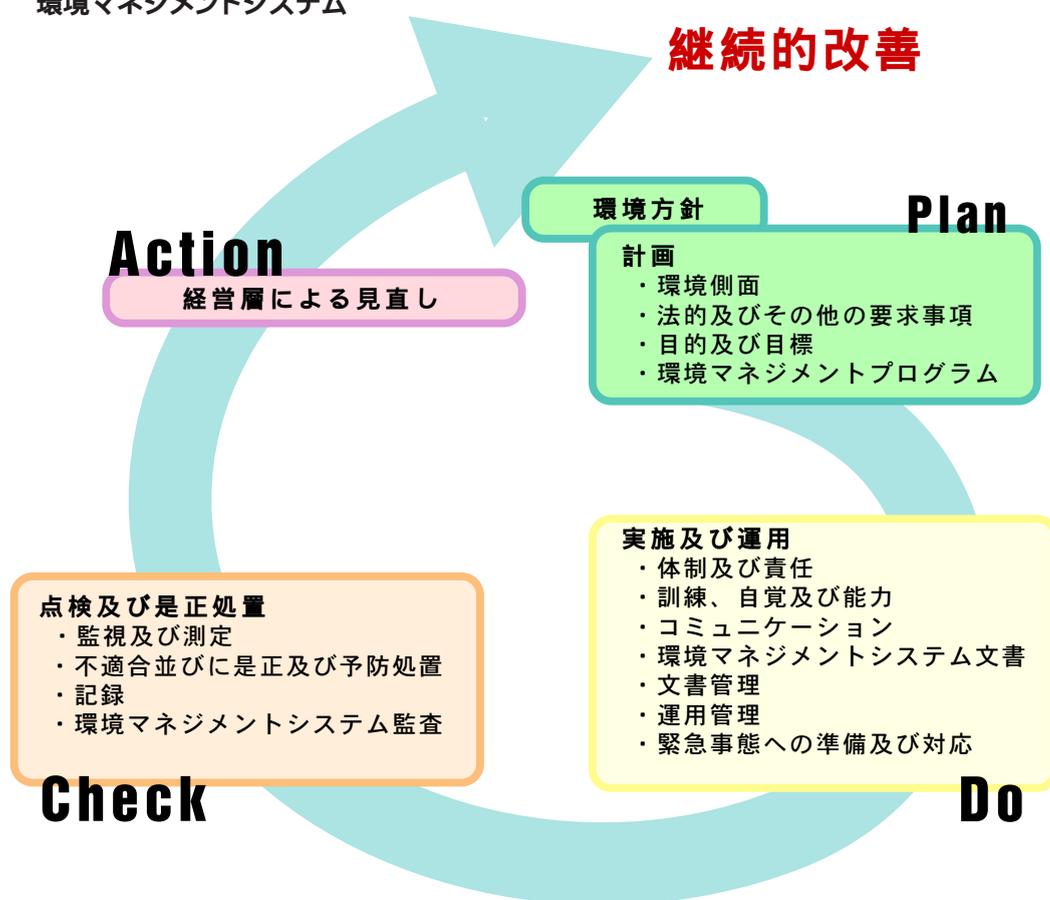
認証登録証



(富士裾野工場)

環境マネジメントシステム

継続的改善





環境マネジメント

(2) ISO14001への取り組み

内部環境監査

ISO14001認証取得工場では、不二家の内部環境監査員資格をもった監査員が、内部環境監査を行い、環境マネジメントシステムが適切に実施、維持されていることを確認しています。内部環境監査の結果は経営層に報告し、環境マネジメントシステム見直しの際の、重要な資料としています。

2003年度は内部環境監査員の養成をさらに推進する予定です。

各工場の内部環境監査員数

事業所	内部環境監査員数(人)
富士裾野工場	15
平塚工場	19
秦野工場	24
野木工場	10

工場外観



(秦野工場)

内部環境監査の様子



(秦野工場)



環境マネジメント

(2) ISO14001への取り組み

環境教育

環境マネジメントシステムの運用には、システムを運用する従業員ひとりひとりの意識の向上、適切な知識が欠かせません。ISO14001認証取得工場では、全従業員を対象とした環境教育を実施し、知識レベルの向上に努めるとともに、緊急事態を想定した訓練・テストを実施し、環境への影響の予防及び軽減に努めています。



(平塚工場)

緊急事態を想定した訓練の様子



(富士裾野工場)

自分の役割を書いたカード



自分の役割、責任を書いたカードを携帯し、各人が積極的に環境活動に取り組んでいます。(平塚工場)



環境マネジメント

(3) 法令等の遵守状況

環境関連法規制及び自主管理基準について、ISO14001に基づいた管理を行い法規制遵守に努めています。また、地域の環境保全のために、富士裾野工場では「裾野市公害防止協定」を締結しています。

富士裾野工場の排水処理場

水質汚濁防止法の対策として、排水は工場内にある排水処理施設で処理後、公共の河川に放流しています。排水の水質や水量測定を行い、排水の維持・管理に努めています。

工場外観



(富士裾野工場)



排水処理場



(富士裾野工場)



環境マネジメント

(4) 環境会計

不二家では、環境への取り組みに関わる投資と効果を把握することにより、さらに効率的な取り組みを推進していく目的で、環境会計を導入しました。集計にあたっては、環境省の「環境会計ガイドブック2002年版」を参考としました。

2002年度の導入の結果、事業活動における環境保全の為の費用と、環境マネジメント活動を通じて得られた経済効果の把握と評価が、定量的に出来るようになりました。

2003年度も、効率的な取り組み推進のために、より精度の高いデータ収集及び集計範囲の拡大に努めます。

2002年度環境会計

集計範囲：富士裾野工場、平塚工場、秦野工場の合計値

集計期間：2002年4月1日～2003年3月31日

単位：千円(消費税込み)

環境保全コスト			
分類	主な取組の内容及びその効果	投資額 (千円)	費用額 (千円)
(1)生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を制御するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		86,708	116,352
内訳	①公害防止コスト	11,871	50,047
	②地球環境保全コスト	74,837	1,445
	③資源循環コスト	0	64,860
(2)生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	容器リサイクル法納付金	0	44,919
(3)管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	社員環境教育費用 ISO14001定期審査費用、EMS維持、運用費用 管理活動効率化、その他	0	6,021
(4)研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		0	0
(5)社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	環境保全団体支援金 環境活動広告 地域環境保全活動参加費用	0	1,151
(6)環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	汚染負荷量賦課金	0	461
環境保全コスト合計		¥86,708	¥168,904

環境効果

経済効果		
内容	対前年削減費用 (千円)	対前年比 (%)
エネルギー削減効果	81,107	89.0
廃棄物削減効果	1,509	97.7
合計	82,616	89.7

環境保全効果	
内容	対前年比
総エネルギー消費量	7.1%削減
総水使用量	2.6%削減
総廃棄物排出量	2.2%削減
リサイクル率	10.1%増加
CO ₂ 排出量	7.8%削減



環境保全活動

(1) 廃棄物の減量化とリサイクルへの取り組み

リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の3Rの考え方を基本に、廃棄物の減量と再資源化の推進に取り組んでいます。



発生を抑制:

菓子製造の工程で、製品がラインから落下すれば廃棄物になってしまいます。秦野工場では、廃棄物の発生量を減らすため、焼菓子製造ラインの装置を改善し、廃棄物の発生を防止しています。



焼菓子製造ライン(秦野工場)



搬入容器の見直し:

一部の原材料について、搬入に使う容器を見直し、搬入後は廃棄してしまう一斗缶(ガロン缶)から、繰り返し使える専用容器に変更しました。これにより、廃棄金属缶の発生量を減らすことができました。



練乳のローリー搬入(富士裾野工場)



糖液のトータ搬入(秦野工場)



分別の徹底:

再資源化を容易にするためには、まず、分別の徹底が必要です。ISO14001認証取得工場では「廃棄物フローシート」を作成し、フローにそった分別の徹底を図っています。また、本社ビルにおいても、リサイクルボックスを設置しています。



リサイクルセンター(秦野工場)



リサイクルボックス(本社ビル)



環境保全活動

(1) 廃棄物の減量化とリサイクルへの取り組み

処理先の選定: 廃棄物の処理に際しては、再利用、再資源化が可能な処理先を選定し、リサイクル率向上を進めています。

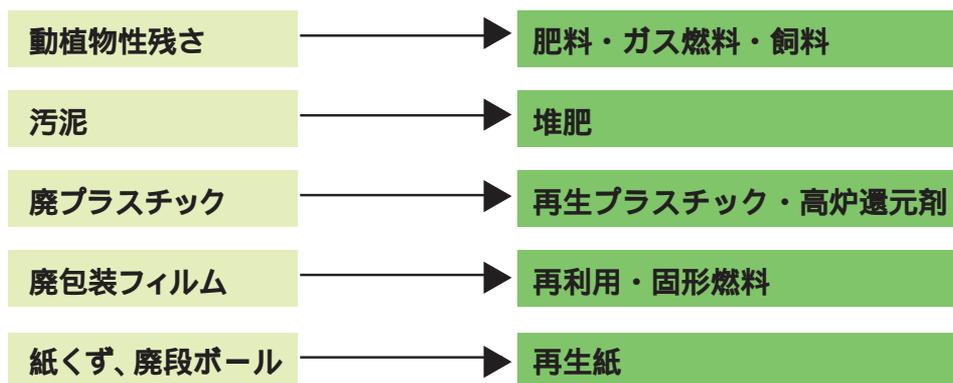
フードエコロジーシステム参画

秦野工場では、(株)フードエコロジーシステム社の養豚飼料化システムに参画しました。これは食品残さを原料にして、発酵飼料を製造し、養豚農家に供給する仕組みです。従来、飼料化に向かなかった高糖分、高脂肪分の仕込み原料屑が、高カロリーで良質な豚の飼料になっています。

廃棄物交換システム

平塚工場では、神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市と神奈川県内の商工会議所が登録・あっせんしている「廃棄物交換システム」に参加しています。チョコレートかす・カカオ豆の皮などを肥料・飼料として登録し、地元の農家との交換が成立しています。

主な廃棄物のリサイクル



レストランでの取り組み: 不二家ロードサイドレストランでは、レストランから発生する食品廃棄物については、これまでに排出量の把握、業態・売上高と排出量の関係の分析など進めてきましたが、2003年度は、食品廃棄物のリサイクル実用実験を、不二家レストラングループの店舗で開始します。

ISO14001 認証取得工場の廃棄物減量とリサイクル率向上

	2001年度	2002年度
総廃棄物量(kg)	3,457,599	3,381,325
リサイクル率(%)	81.0	91.4



環境保全活動

(2) 省エネルギーへの取り組み

地球温暖化防止のためのCO₂ 排出量削減として、省エネルギー活動を推進しています。

設備の更新: 2002年度までに、順次、効率の高い設備への更新をおこなってきました。2003年度も、設備の整理統合や新技術の導入検討など、エネルギー使用量の削減に積極的に取り組みます。

クーリングタワー循環ポンプを省エネタイプへ

秦野工場では、クーリングタワー(空調設備)の循環ポンプをインバータ制御を行う省エネタイプに更新し、電力の使用量を削減しています。



クーリングタワーの循環ポンプ
(秦野工場)

ボイラーの廃熱回収

平塚工場では、ボイラーに廃熱回収装置を設置し、特A重油の使用量を削減しています。



ボイラードレン水の廃熱回収
(平塚工場)

省エネタイプの蛍光灯に更新

工場の照明灯を省エネタイプに更新しました。

設備の適正運転: 各設備の運転時間の見直しや効率的な稼働、空気調整機の適正管理などにより、エネルギー使用の効率化を推進しています。

ISO14001 認証取得工場の省エネルギー

	2001年度	2002年度
電力使用量(kwh)	36,022,771	32,911,607
特A重油使用量(L)	2,580,702	2,454,596
LPG使用量(m ³)	179,253	163,355
都市ガス使用量(m ³)	355,833	415,273
CO ₂ 排出量(CO ₂ -t)	23,295	21,475



環境保全活動

(3) 環境汚染物質排出量の削減への取り組み

CO₂排出量抑制: 全日本菓子協会では、「地球温暖化防止のため、CO₂の排出量を1990年と比較して6%削減する」という目標を掲げています。不二家でも、その目標を目指し、活動を推進しています。2002年度、平塚工場では、ボイラー燃料を、従来使用していた特A重油から、CO₂排出量の少ないLNGに転換しました。今後は秦野工場でも、設備更新時には、LNGへの燃料転換を検討する予定です。



環境に優しい都市ガス貫流ボイラー
(平塚工場)

ダイオキシン対策: ダイオキシンの発生を抑えるため、富士裾野・平塚・秦野の3工場では、全ての焼却炉を廃止しました。洋菓子・外食の6工場についても、1工場を除き、焼却炉を廃止しました。

フロン対策: 工場の冷却ライン・冷凍庫・冷蔵庫については、設備更新時に順次、代替フロン（HFC類）に切り替えを進めています。また、修理時のフロン排出を防止するため、フロンガス回収機を使用しています。



代替フロンを使用した空気調整機
(秦野工場)

洋菓子・レストラン・喫茶の店舗では、代替フロン(HFC類)を使用した冷凍庫・冷蔵庫・洋菓子ショーケースに切り替えを進めています。



代替フロンを使用した冷蔵庫



環境保全活動

(4) 環境に配慮した商品設計

製品の容器や包装については、製品をおいしく安全にお客様にお届けする品質保持の役割と、省資源や廃棄時の環境負荷低減という環境配慮の両面から取り組みを進めています。

包装の軽量化、簡素化: 包装の形状や素材の工夫で、軽量化を進めています。また、製品の個装を見直し、包装の簡素化を進めています。



商品トレイと外箱（フタ）が分かれている包装形状から、トレイ一体型の形に変更しました。

プチフル 16ヶ入
(洋菓子店舗商品)



改良

環境負荷の少ない包装素材: 2000年までに、塩化ビニルを含む包装素材の使用を廃止し、他の素材への切り替えが完了しています。また、包装素材には、再生材の導入を進めています。



ビーナッツチョコレートの包装材
(塩化ビニリデンコートから透明蒸着ポリエステルへ)

リサイクルマークの表示: お客様が容器や包装を廃棄する時の参考となるよう、全ての製品にリサイクルマークを表示しています。



商品のリサイクルマーク





社会貢献活動

不二家では、地域社会と協力し合って地球環境の保全に取り組んでいます。

緑化活動: 各工場敷地の緑化は環境マネジメントシステムでの目標にも取り入れ、工場での植樹を進めています。また、平塚工場では、「丹沢の緑を育む集い」に参加し、神奈川県丹沢の大倉尾根において千年樹の植林を行いました。



富士裾野工場植樹祭



丹沢大倉高原の千年樹植樹

環境美化活動: 全国の事業所で、地域の環境美化活動に協力しています。平塚工場では、1965年以来、「相模川をきれいにする協議会」に参加し、清掃活動をはじめ、さまざまな活動に参加しています。富士裾野工場では、狩野川水系の河川清掃活動に参加しています。



相模川清掃活動



狩野川水系の清掃活動

緑の募金活動: 森林や樹木等の緑を、国民の自発的な協力により守り育て、国際協力を行うことを目的に、平成7年に「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」が制定されました。緑の募金への寄付金は、森林の整備や緑化の推進、国際協力に関する活動に使用されます。不二家でも、事業所内に募金箱を設置し、社員からの募金を集めています。



事業所内に設置した緑の募金箱



不二家の環境への取り組みの歴史

不二家では、生産工場における公害防止の取り組みや地域協定の締結、更に省エネルギーの取り組みとして小型貫流ボイラー設備の導入など、環境保全に関する取り組みを行い、全社的には1999年9月環境対策委員会を設け、積極的に環境問題への行動がスタートしました。不二家は「環境との調和」を目指して環境問題に具体的に取り組み、社会貢献に努めてまいります。

年	不二家の環境への取り組み		世の中の動き
1967年			・公害対策基本法制定('67)
1968年	8月	秦野工場完成	
	11月	埼玉工場完成	
1969年	7月	野木工場完成	
1971年	5月	泉佐野工場完成	・環境庁 設置('71)
			・国連 人間環境会議開催('72)
			・公害健康被害補償法制定('73)
1988年	5月	平塚工場 小型貫流ボイラー(高効率ボイラー)導入	・オゾン層保護法制定('88)
			・水質汚濁防止法改正('89)
1990年	6月	富士裾野工場完成	・地球温暖化防止行動計画閣議決定('90)
	7月	平塚工場 脱臭装置(コア臭低減)設置	
1991年	8月	富士裾野工場 静岡県裾野市と公害防止協定を締結	・再生資源の利用の促進に関する法律制定('91)
			・地球サミット-リオデジャネイロ開催('92)
1993年	5月	秦野工場 排水処理施設として加圧浮上装置導入	・環境基本法 制定('93)
	6月	秦野工場 特別高圧変電設備設置	
			・容器包装リサイクル法制定('95)
1996年	6月	富士裾野工場 嫌気性排水処理の増設	・ISO14001 JIS規格化('96)
	7月	平塚工場 脱臭装置(コア臭低減)増設	・経団連 環境アピール宣言('96)
1997年	3月	平塚工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーへ転換完了	・気候変動枠組条約第3回締約国会議('97)
	6月	秦野工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーに転換	(COP3) 日本: 京都
	9月	秦野工場 ターボ冷凍機導入(省エネルギー対策)	京都議定書採択
1998年	6月	全社『脱塩ビ宣言』2000年までに塩ビ素材の使用廃止を宣言	・地球温暖化対策推進法制定('98)
			・家電リサイクル法制定('98)
			・省エネルギー法改正('98)
1999年	8月	秦野工場 第一種電気エネルギー管理指定工場に指定	・PRTR法制定('99)
	9月	平塚工場 第一種電気エネルギー管理指定工場に指定	・ダイオキシン対策特別措置法制定('99)
	9月	全社 環境対策委員会の設立省エネルギー、廃棄物対策、オゾン層破壊防止対策、等環境問題に取り組みの開始	
	12月	平塚工場、秦野工場 廃棄物焼却炉廃止	
2000年	2月	『不二家 環境宣言』の制定ISO14001認証取得の取り組み開始	・容器包装リサイクル法完全実施('00)
	5月	容器包装リサイクル法に対処	・循環型社会形成推進基本法制定('00)
	12月	富士裾野工場 廃棄物焼却炉廃止	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律改正('00)
			・食品リサイクル法制定('00)
			・グリーン購入法制定('00)
			・建設リサイクル法制定('00)
2001年	4月	富士裾野工場 ISO14001認証取得	・環境省設置('01)
			・フロン回収・破壊法制定('01)
			・PCB特別措置法制定('01)
2002年	4月	平塚工場 ISO14001認証取得	・新『地球温暖化対策推進大綱』決定('02)
		秦野工場 ISO14001認証取得	・地球サミット-ヨハネスブルク開催('02)
	11月	『不二家 行動規範と行動指針』の制定	・自動車NOX法制定('02)
	12月	野木工場 廃棄物焼却炉廃止	・京都議定書批准('02)
2003年	3月	平塚工場 全小型貫流ボイラーのガス化完了	
	4月	野木工場 ISO14001認証取得	
	7月	環境報告書(2003年版)の発行	



会社概要

(2003年3月末日現在)

社名(商号)	株式会社 不二家	
本社所在地	〒104-8181 東京都中央区銀座7-2-17	
創業	1910(明治43)年11月	
代表者	藤井林太郎	
会社設立	1938(昭和13)年6月	
社是	愛と誠心(まごころ)と感謝を込めて、お客様に愛される不二家になりましょう	
経営理念	常によりよい商品と最善のサービスを通じて、お客様に美味しさ、楽しさ、便利さ、満足を提供し、社会に貢献することが不二家の使命です。	
資本金	63億1722万円	
売上高	869億円(連結)／795億円(単体) (2003年3月期)	
従業員数 (2003年5月15日現在)	正社員1,568名(男子1,296名、女子272名)	
事業内容	菓子・食品・アイスクリームなどの製造卸売 洋菓子販売チェーン店・喫茶・レストラン・カフェチェーン店の経営 バイオ技術による分析および研究試薬の製造販売不動産事業 他	
主要取引銀行	りそな、みずほコーポレート、横浜、三井住友他	
主要関係会社 (※50音順)	株式会社甲信不二フード 株式会社新潟不二フード 株式会社不二家ロードサイドレストラン 日本食材株式会社 不二家サンヨー株式会社 不二家乳業株式会社	株式会社ダロワイヨジャパン 株式会社不二家システムセンター 株式会社ユトリア不二家 ビーアール サーティワン アイスクリーム株式会社 不二家テクノ株式会社
ファミリーマークについて	ファミリーマークは、不二家を象徴するマークです。 「FUJIYA」のイニシャルをかたどったこの“F”には、 ・Familiar(ファミリア)親しみやすい ・Fantasy(ファンタジー)夢 ・Fresh(フレッシュ)新鮮な、などの意味がこめられています。 ・Fancy(ファンシー)お気に入りの ・Flower(フラワー)花	
沿革	1910(明治43)年 横浜元町に不二家洋菓子店を創業 1923(大正12)年 レギュラーチェーンの経営に着手 1938(昭和13)年 株式会社不二家 設立 1952(昭和27)年 ミルキー発売、商事部門の基盤確立 1963(昭和38)年 フランチャイズチェーン方式導入 1964(昭和39)年 不二家ネクター発売 1983(昭和58)年 ペプチドの合成・精製開始 1989(平成元)年 (株)ダロワイヨジャパン設立 1994(平成6)年 九州工場完成 2001(平成13)年 富士裾野工場ISO14001認証取得 2002(平成14)年 平塚工場・秦野工場 ISO14001 認証取得 2003(平成15)年 野木工場 ISO14001 認証取得	
営業部・支店	東京、横浜、大阪、福岡、仙台、札幌、新潟、広島、高松など全国の主要都市	
店舗	銀座、数寄屋橋、横浜、名古屋、心斎橋、難波、博多、札幌などに直営店139店、フランチャイズ店810店	
工場・研究所	平塚(神奈川県)、秦野(神奈川県)、富士裾野(静岡県)、埼玉(埼玉県)、野木(栃木県)、泉佐野(大阪府)、九州(佐賀県)、札幌(北海道)、市川(千葉県) に9工場 / 研究所(神奈川県秦野市)	



ご意見・ご感想をお寄せください。

この環境報告書へのご意見・ご感想などは以下にお寄せください。

みなさまからの率直なお声をお待ちしております。

次年度の環境報告書ならびに弊社の業務内容の参考にいたしたく存じます。

お便りの場合：〒104-8181 東京都中央区銀座7-2-17 株式会社不二家 品質保証部 環境対策担当宛

Eメールの場合：不二家ホームページ内のお問合せ専用フォームをご利用ください。